

振り返りシートの成果

本校では、「単元を貫く課題を解決するために、あなたはどのように取り組みましたか？また、その取り組みの成果と課題はなんですか？」という問いを各教科で生徒に記述させた。

3年生社会

今回の単元では前回の単元で出てきた反省点を活かすため、自分の意見を何回も見直し、本当に資料などから考えたことなのか、矛盾していないかを見極めることをしました。その結果、授業内容をあまり予習ができなかった日でも、授業内容を理解することができました。しかし、自分の意見を持つことは今までより完璧にできたけれど、前回より授業内の発言回数が減ってしまいました。原因としては、単純に緊張していたり、「的はずれな発言だったらどうしよう」などの失敗に恐れていたからだと思います。次回の単元では失敗を恐れずに、自信を持っていきたいです。また、もし失敗してしまっても、次につなげる努力をしたいと思います。

3年生社会

今回の単元では個人個人の考え方をもち必要がある部分が多かったので、色々な角度から見て自分なりの意見をもつことを意識しました。その後の意見共有では、自分にはなかった考え方や意見を知ることができ考えを深めることができました。消費者や労働者、雇用者のそれぞれの立場になって考えてみることで、それぞれの求めていることが整理でき、大切にされている考え方が分かりました。企業のしくみを理解することで、消費者に求められていることがより理解できたけれど、今の時点でもできていないことがあるのでより良い生活のためにも消費者として大切なことを意識して過ごしていきたいです。また将来自分も労働問題などに直面することがあるかもしれないので、他人事だと思わず学習していきたいです。

→「今回の単元では前回の単元で出てきた反省点を活かすため～」や「しかし、前回よりも授業内の発言回数が減ってしまいました。原因としては～」といったような個人内での取り組みに対して評価し、新たな解決方法を考えたり、他者の意見を取り入れて考えを深めたりといった自己調整していることがわかる記述が見られる。また、授業内だけでなく社会とつながろうとする姿勢が見られる。このことから主体的に学習に取り組む態度が身につけてきていることがわかる。

1年生国語

今回の単元を通して、プレゼンは魅力が必要だということを知りました。今回の教材の内容では、不便の良さを題材として説明文が構成されており、その文を基として、自分たちの班でプレゼンを行いました。プレゼンをするにあって、大切なことはどれだけ自分たちが考えた資料をもとに観客を魅了できるかであり、そのためには、話のスムーズさ、面白さ、話の間のあけかたなど、考えればたくさん出てきますが、その頂点に立つのが魅力だと考えました。プレゼンを観客の前ですると、緊張するため、話しがスムーズにできなかつたり、台本をずっとみて話してしまったりして、うまくいかないことを多かったです。そこで、恥ずかしがらず前を向いて、本当にこれが話したいんだ！という心の強さがあると、魅力を伝えられ、言いたかったことがすべて言えるということをしりました。今後の学習の中や、社会での実践に生かしていきたいです。

1年生理科

今回、光について学習し、レーザーポインターを使って、光の進み方や光が作り出すものについて学んで、入射角や反射角、屈折、像など用語や凸レンズなど実験で使う器具について新しく様々なことを学びました。始めにということで、私達、人間がものを見ることができるのは、光が関係していて、もとである光源というものがそのものに反射し、その光が自分たちの目に入ってくることで、ものを見ることができる、物と目と光によって、関係はできているとわかりました。今回の学びを通して、光は私達が生活する中で、ものを見たり、色を判断したりすることに、とても大切であり、光は、ただ、ものを反射させているのではなく、進み方にも違いがあって、違いがあることで、様々なものを見ることができるとわかりました。なので、光は目に見えなくても、身近なところでとても役立ち、光があるからこそ、今、よりよく生活することができていると感じました。

→1年生も他者からの学びを得たり、課題解決をする中で改善点を見つけたりと自己調整につながっていることが見受けられる。また、今回の単元で終わることなく、次の学習の機会や、社会とのつながりを意識していることがわかる。一方で客観的な分析ができておらず、感想やわかったことを書くのみにとどまっている生徒も多い。その課題を解決するためには、生徒に単元全体の見通しを持たせ、生徒がゴールに向かって課題を計決する単元設計をすることが必要である。3年間をかけて実践を積み重ね、生徒の自己調整能力を育成していきたい。

データから見る成果と課題

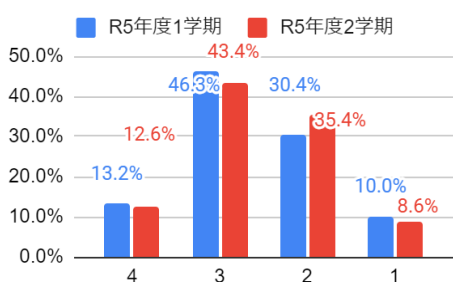
県学力学習調査の見解

知識・技能と思考力・判断力・表現力県は学調の結果より、正答率・伸びた割合と共に県平均よりも低かった。努力調整方略が県と比較して低いことから、分からないことや苦手なことから逃げてしまう傾向がある。

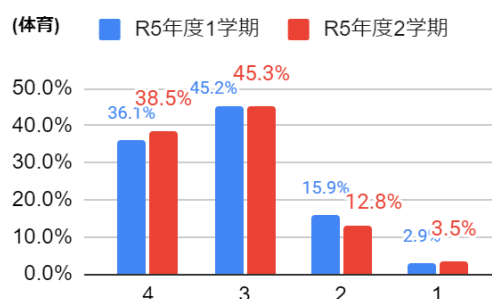
授業の様子として、静かに話を聞くことができているが、授業の内容を理解したり自分の中に落とし込んだりできていないと考えられる。

学びに関するアンケートの見解

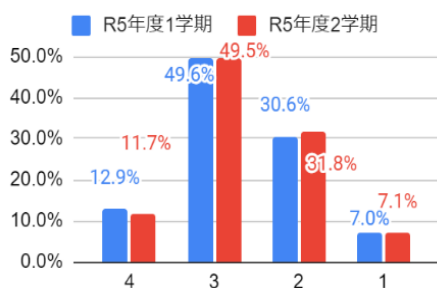
学びに関するアンケート結果 4 あてはまる→1 あてはまらない



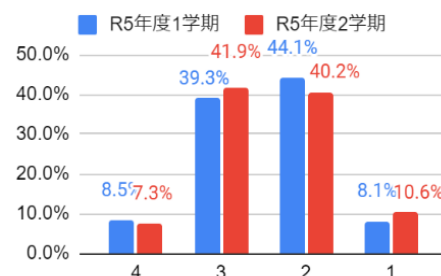
項目：自分にあった家庭学習の方法を知っている



項目：授業中に他の人の意見を聞いたり、自分の意見を述べることによって、学びが深まったと思う場面がある (体育)



項目：学ぶことは楽しい



項目：自分で計画を立て、計画に沿って学習に取り組むことができる

個別最適な学びの視点において、図より生徒は学ぶことは好きであり、楽しいとも感じている。また、授業の進捗についても全教科で肯定的な意見がほとんどである。

しかし、質問項目「自分で計画を立て、計画に沿って学習に取り組むことができる」や「自分にあった家庭学習の方法を知っている」では、肯定的な意見とそうでない意見が半々である。また、1学期よりも2学期の方が生徒に迷いや悩みが出てきていると読み取れる。このように生徒は、学ぶ意欲はあっても家庭学習や自己調整に至っておらず、県学調の結果にもつながっていると考えられる。

協働的な学びの視点において、ICT を使用して協働的な活動を行ったり、他の人の意見を聞いたりして学びが深まったと感じている生徒が多い。この結果はほぼ全ての教科で見られ、生徒は授業で積極的な意見交換をして学びを深めていることがわかる。

このように本校の生徒は、学ぶことや新しいこと様々な人々と協働して進めていくことは好きである。しかし、学んだことがその場だけで完結してしまうため、定着までに至っていない。今後の取り組みとしては、協働的な学びの授業を生かしつつ、個別最適な学びとして家庭学習への声掛けやもっと知りたい、学びたいという問いを設定する必要があると考えられる。